

相上 律子 助教

修士(保健学)

Ritsuko Aijo

✉ ritsuko.aijo@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

精神保健看護学、認知科学、臨床神経心理学、
認知リハビリテーション

プロフィール

2016年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 保健学専攻 博士前期課程 修士

2016年 京都大学医学部附属病院 看護部 看護師

2019年 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 助教

2025年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 医学専攻 医学博士課程在学中

研究分野

精神保健看護学

所属学協会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、石川県精神保健福祉協会、日本精神科看護学会、日本看護学会、日本学術会議協力学術研究団体北陸心理学会、日本精神障害者リハビリテーション学会、認知神経科学学会、日本統合失調症学会

専門分野・研究分野

病気がある人の認知機能改善を目指した認知リハビリテーションに関する研究

認知機能とは、知覚、注意、記憶、問題解決および計画を立てることに関わる認知やメタ認知過程を意味している。その認知機能が障害されると、日常生活における自立や就労、人間関係の構築を含む社会適応にまで大きく影響してしまう可能性がある。統合失調症がある当事者に関して言うと、妄想や幻覚といった、薬で治療できる症状が軽減されても社会適応の促進が困難となる場合がある。これは、先に述べたような認知機能障害が影響していると考えられており、その認知機能の改善において、“認知リハビリテーション”が注目されるようになった。認知リハビリテーションは、認知機能障害が原因で引き起こされる自立や就労の遅れなどに働きかけるというより、知覚、注意、記憶そして問題解決といった認知機能そのものに直接焦点を当てて訓練をすることで、認知機能の改善を目指す脳のトレーニングである。この認知リハビリテーションの治療効果は、欧米において、心理社会的治療の重要な1つとして、医療現場で組み込まれるようになった。しかし、日本においてこの取り組みは10年以上遅れを取っている。

そこで、この問題に対して対策が必要ではないかと考えた。具体的には、遅れの原因を医療現場で調査することや、トレーニング実施者が少ない地域でも実施できるように認知リハビリテーションのオンライン化を進め、治療システムの基盤をつくることである。現在は、これらについて追求することが社会への貢献につながると考え、研究に取り組んでいる。

研究内容

精神に障がいがある当事者を対象とした代償的認知トレーニングのオンライン化

認知リハビリテーションには、様々な介入方法がある。その介入方法の中でも現在、代償的認知トレーニング(Compensatory Cognitive Training; 以下、CCT)を活用した研究を開始している。このCCTの特徴は、損なわれた脳の機能自体を回復させることを目的とするのではなく、残っている機能をうまく利用した“認知機能の代償”を目的としている。認知機能の中でも、CCTが治療のターゲットとしている領域は、処理速度、注意/覚醒、作業記憶、学習/記憶、実行機能を含む複数の認知領域である。CCTは、他の認知リハビリテーションと比較すると、プログラム全体の介入頻度や実施期間が短く、入院病棟や精神科デイケアの集団プログラムなどにも、比較的取り入れやすい。しかし、取り入れやすいとはいっても、CCTを多くの職種が様々な場所で活用できるシステムを日本で確立することは、非常に難しい。さらに、日本においては、臨床での活用頻度が少ないため、どんなに効果が証明されていても、保険取扱いにはつながらないという現状がある。

そこで現在は、当事者を対象として、オンラインを取り入れたCCTの実施とその治療効果について調査している。その際、オンライン化することにより生じる当事者や医療者への効果についても明らかにしていく予定である。

認知リハビリテーションで
多くの人を支えたい！

シーズ・地域連携テーマ例

- 職務満足や就業継続意思に関する研究
- 認知リハビリテーションに関する介入研究
- ストレngthモデルを活用した研究

論文

- How nursing students' perceptions of people with psychiatric disabilities change when using the strengths model during practicums: A qualitative research study, Katayama M, Aijo R, Kitaoka K, Kawaguchi M, Nurse Education Today, DOI: 10.1016/j.nedt.2024.106190, 2024
- Mothers with depression in Japan: Help-seeking from husbands and child-rearing behaviors, Katayama M, Kitaoka K, Aijo R, BMC Women's health, DOI: 10.1186/s12905-022-01604-5, 2022
- Relationship between job satisfaction and intention to remain among nurses working in a hospital in Japan, Aijo R, Kitaoka K, Katayama M, Journal of wellness and health care, 41(2), 113-127, 2017
- Burnout-related effects of emotional labor and work-related stressors among psychiatric nurses in Japan, Sakagami A, Aijo R, Nguyen Thi Thu H, Katayama M, Nagata K, Kitaoka K, Journal of wellness and health Care, 41(1), 97-111, 2017

口演・口頭発表等

- 遠隔化したCompensatory Cognitive Trainingの認知機能改善効果の検討：3か月のフォローアップ, 第44回 日本看護科学学会, 2024年12月
- ストレngthモデルは看護学生の精神障害をもつ当事者の捉え方に何を起こすのか?, 第44回 日本看護科学学会, 2024年12月
- Compensatory Cognitive Trainingの遠隔化に向けた取り組み, 相上律子, 片山美穂, 北岡和代, 第43回 日本看護科学学会, 2023年12月
- 看護実習において看護学生がストレngthモデルを看護に活用するプロセス, 片山美穂, 相上律子, 北岡和代, 第43回 日本看護科学学会, 2023年12月
- Reading the Atmosphere: The Process of Participant Relationship-Building That Takes Place Through Participation in Compensatory Cognitive Training, Aijo R, Matsui M, Katayama M, Kitaoka K, 27th East asian forum of nursing scholars, March 2023
- 案外悪くない：遠隔での代償的認知機能改善療法を完遂した参加者の心理的プロセス, 相上律子, 片山美穂, 北岡和代, 第42回 日本看護科学学会, 2022年12月
- Mothers with depression in Japan: Help-seeking from husbands and child-rearing behaviors, Katayama M, Kitaoka K, Aijo R, Oda A, Kato C, 24th East asian forum of nursing scholars, April 2021

競争的資金等の研究課題

- 統合失調症者の残存機能を活かす日本版認知機能改善療法の創生, 科学研究費助成金, 基盤研究 (C), 2023年度 - 2026年度

社会貢献活動

- 社会福祉法人なごみの郷 苦情解決第三者委員 (2024年4月 - 現在)
- 石川県精神保健福祉家族会連合会 相談員研修会講演会 講師 (2024年9月10日)